

東国千年の都

発掘調査最前線

東国文化の中心地を掘ってみた2

前橋・高崎連携事業文化財展の開催にあたって

今回で15回目を迎える前橋・高崎連携事業文化財展は、両市文化財のテーマを毎年変えて展示し、その魅力を多くの方に知っていただく機会となっています。

今回は近年の発掘調査で新たに発見された埋蔵文化財などを紹介する速報展を開催します。初公開の文化財も含め最新の発掘成果をご覧ください、新しい発見や感動をいち早く皆様にお届けしたいと考えています。そして、このような貴重な文化財が私たちのごく身近な場所から見つかっていることにも目を向け、文化財の保護と活用について引き続きご理解とご協力いただきますようお願い申し上げます。

私たちの足元から発掘される埋蔵文化財には、その地域で暮らしてきた人々の歴史や文化を知るための情報が多く含まれています。今回の展示を通して、当時の人々の息吹を肌で感じていただければ幸いです。



前橋市長 山本 龍



高崎市長 富岡 賢治

[主催] 前橋市・前橋市教育委員会、高崎市・高崎市教育委員会

[後援] 朝日新聞社前橋総局、NHK前橋放送局、FM GUNMA、共同通信社前橋支局、(株)群馬よみうり産経新聞前橋支局、J:COM群馬、時事通信社前橋支局、上毛新聞社、(一社)高崎観光協会、東京新聞、前橋支局、毎日新聞前橋支局、(公財)前橋観光コンベンション協会、まえばしCITYエフエム、読売新聞前橋支局、ラジオ高崎 (50音順)

高崎市の発掘調査

1 本郷奥原古墳群 (本郷町)

榛名山南麓の烏川左岸、本郷台地上の標高173m前後に立地。本郷奥原古墳群(70~80基で構成)の北西隅にあたる。3基の古墳を確認。1・2号古墳の埋葬施設は横穴式石室で、その構造や周堀内から出土した供献土器の年代から7世紀後半築造と想定される。3号古墳の埋葬施設は不明だが、葺石が施され、円筒埴輪が樹立する。6世紀代の築造で、本古墳群のなかではやや古い段階に位置づく。



2号古墳石室(北方向から)

2 若田坂上遺跡 (若田町)

高崎市西部の八幡台地上に立地。縄文時代中期~古墳時代後期の竪穴建物を確認した。弥生時代後期の遺構は礫床墓を検出し、人形土器2体や高崎市初の事例となる鉄製の腕輪(螺旋状鉄釧)が出土した。このほか8基の古墳跡を確認、埋葬施設は横穴式石室と考えられる。4号墳出土の馬具(瓢形環状鏡板付轡)は中国地方など西日本で出土例が多く、被葬者像が注目される。



遺跡全景(西方向から)



遺跡全景(真上から)

3 若田金堀塚遺跡 (若田町)

若田坂上遺跡の南に隣接する。ここでも弥生時代後期の礫床墓を確認し、鉄釧(市内2例目)が出土した。

古墳時代中期後半以降の建物跡からは、板状や掌で握った痕跡のある焼成粘土塊が出土し、近くで土器づくりが行われている可能性がある。また、墓域と集落跡の境で、上幅2.5mの直線的な溝跡を確認した。埋没土中に浅間B軽石(1108年降下)が堆積し、墨書土器が出土した。周辺にある古代の竪穴建物から、金属製の帯金具(巡方)や陶製円面硯も出土し、古代片岡郡衛との関連も想定される。



弥生時代の墓(礫床墓)



直径8mの古墳

4 井出谷頭遺跡 (井出町)

榛名山南麓にひろがる扇状地形の端部にあり、周辺には中小河川が放射状に流れ下る。8次調査で古代の谷地形を確認し、並行する溝跡は丸太や板状の木が発見され、水利施設があった可能性がある。また、溝の埋土中から土師器坏、子持勾玉や、桃の種が出土し、近隣で祭祀行為が行われたと推定される。木材の科学分析(放射性炭素年代測定)や出土品の年代から古墳時代後期に位置づけられる。



谷地形(北方向から)

5 大八木寺東遺跡 (大八木町)

高崎市北部の井野川左岸にある自然堤防上、標高100m前後に立地する。調査では古墳時代前期(4世紀)に築造された方形周溝墓を1基確認した。規模は1辺13m以上の方台部の周りに幅2~3mの溝が巡り、北西隅は地山を掘り残して「土橋」状となる。また、古墳時代(5世紀末~6世紀前半)の竪穴建物跡から須恵器(甕・坏身)が出土し、同じ建物からは石製の勾玉・管玉や白玉など、祭祀に用いられる品々が出土している。このほか、平安時代の竪穴建物からは、灰釉陶器(箸置きとされる「耳皿」、液体用容器の「瓶」)や緑釉陶器の坏が出土し、高級食器が入手できる階層の居住が推定できる。



方形周溝墓(東方向から)

6 宿大類塚之越遺跡 (宿大類町)

井野川右岸の後背湿地にある。調査では、浅間B軽石に覆われた水田跡が広範囲で確認できた。また、部分的ではあるが東山道(牛堀矢の原ルート)に関わる側溝の一部を検出した。遺跡東端では、古墳時代前期~平安時代の遺物を多量に含む「包含層」から、滑石製の勾玉が出土した。長さ8cmと大振りで頭部に穴があけられ、その上端部には線刻により顔を表現する。年代確定する材料に乏しいが、滑石の使用や鋸齒文の意匠から、古墳時代中期を中心とした時期が推定される。



遺跡全景(東方向から)

7 綿貫遺跡群 (綿貫町)



子持勾玉の出土状況

国道354号線と関越自動車道の接続地で、高崎スマートIC産業団地造成事業に伴う発掘調査を行っている。このうち、中心付近を南東方向に流れる井野川より西側を綿貫遺跡群、東側を下滝遺跡群として平成26年度から発掘調査を開始(現在も継続中)し、古墳~平安時代の大規模な集落跡(これまでに確認された竪穴建物跡は2000軒以上)を確認した。綿貫遺跡群では古墳時代後期(6世紀後半頃)と平安時代の遺構が多く、古墳時代後期の竪穴建物が密集するエリアの南方100mには、6世紀後築造の大型前方後円墳である綿貫観音山古墳があり、その関連を指摘できる。

8 上滝新堀北遺跡 (上滝町)

高崎市南東部の井野川左岸にあり、標高は80m前後に立地する。調査では馬を埋葬した穴(1.22×0.89m、深さは31cm)を確認した。穴は南北に長い長方形で、全体を覆かせ、四肢を屈曲させ埋葬(頭部は南側に据え鼻先を北方向へ向ける)されている。地層観察から平安時代の馬と推定できる。このほか奈良時代(8世紀前半)の石製分銅(もしくは「印」)や、平安時代(9世紀前半)の青銅製丸鞆(役人が正装時に着用するベルトの金具)が出土し、馬の発見と合わせ有力者の存在をうかがい知ることができる。



馬を埋葬した穴(西方向から)



調査地遠景(北方向から)

9 倉賀野中町遺跡 (倉賀野町)

江戸時代、倉賀野は中山道と日光例幣使道が分岐する宿駅にあたり、信濃(長野県)や越後(新潟県)と江戸を結ぶ陸上交通の要所で、また江戸廻り船が遊航できる利根川最上流の河岸場として栄えた。主な宿泊者には越中(富山県)の薬売り、江州日野(滋賀県)の近江商人、信州(長野県)の蚕種商人や江戸曲師などの職人がいた。中世では上野国守護の上杉氏により西上野支配の拠点として倉賀野城が形成された。調査では城の三の丸を囲う堀跡を確認した。このほか調査地は倉賀野宿本陣の一角に相当し、江戸時代の陶磁器や文房具(石硯)が発見された。

10 多比良巻ツ屋遺跡 (吉井町多比良)

吉井町域を東流する鑓川右岸の上位河岸段丘面に立地する。高崎市による農道拡幅事業に伴う発掘調査で、古墳時代後期から平安時代初頭に至る集落跡が確認された。調査では、竪穴建物7軒のほか、土坑、溝、柱穴などの遺構が検出された。本遺跡の周辺には、群馬県指定史跡入野遺跡や多比良追部野遺跡など古墳時代後期から平安時代の集落遺跡が広範囲に分布することから、当時この地域に大きな人口流入に伴う集落の拡大があったことが推測されている。

●金銅製帯金具

調査区北端付近の竪穴建物跡から出土した。奈良時代前半。縦幅(帯幅)3cm、横長3.3cmを測る鈍尾で、表面には毛彫りによる非常に精細な装飾が施されている。また、鉄精錬あるいは鍛冶などの金属製品の製作関連の遺物が出土した(古墳時代終末期から奈良時代後半頃)。



調査地風景

前橋市の発掘調査

1 2 総社古墳群 (総社町)

総社古墳群は、榛名山東南の裾野の末端に広がる利根川西岸に分布する東日本を代表する古墳群の一つである。5世紀後半から7世紀後半にかけて連続と築かれた6基の大型古墳が残る。各古墳の兆域確認を目的として、平成29年度より範囲内容確認調査を実施している。令和2年度は総社二子山古墳および愛宕山古墳の調査を実施した。

●総社二子山古墳(国史跡)

墳丘全長約90mの前方後円墳で、6世紀後半の築造と考えられる。石室は前方部および後円部に築かれ、特に後円部石室は、県内にある同時期の古墳の中で最大規模。墳丘規模や石室のつくり、副葬品など綿貫観音山古墳(高崎市)と共通点が多いことが知られる。調査では古墳西側、南側から堀が発見された。堀の深さは現地表面から1mほどと浅いが、古墳の西側で幅22m以上に及ぶ。堀の外側には中堤や外堀が存在していた可能性が高い。

●愛宕山古墳

一辺約56mを測る大型方墳で、7世紀前半の築造と考えられる。埋葬主体部は巨石積みの横穴式石室で、玄室長は約7mを測り、凝灰岩製の家形石棺を持つ。墳丘部調査の結果、少なくとも三段築成であったことが判明した。また、墳丘のテラス面にも石を敷き、墳丘全体を端正に飾り立てた古墳であったことが確認された。



墳丘をめぐる周堀(総社二子山古墳)



墓石及び敷石(愛宕山古墳)

3 推定上野国府 (元総社町)

上野国府の位置について未だ確定していないが、元総社町に存在した説が有力で、その発見・解明を目的とし、平成23年度から範囲内容確認調査を継続している。遺跡のある場所は前橋台地から榛名山東南麓の山麓地形へと変化する位置にあたり、西を築谷川、東を牛池川が流れる低い台地上に立地する。



礎石建物跡

●礎石建物跡

総社神社故地の伝承をもつ宮鍋神社の南約100mの地点で礎石建物跡と考えられる掘込地業を検出した。これは、布地業と呼ばれる帯状の掘込地業が東西に長く長方形に囲む形状をしている。宮鍋神社周辺では、同様の礎石建物跡が本例を含めて少なくとも3例確認されている。また、宮鍋神社の南側周辺では、掘込地業や掘立柱建物跡が検出されており、役所の倉として使われた可能性がある。その存在時期は8世紀代に建てられはじめ、遅くとも10世紀には廃絶していたと考えられる。

●廃棄遺構

礎石建物が廃絶した後の11世紀頃、くぼみに多量の土器が捨てられた状態で確認された。出土品は素焼きの土器で、直径約10cmの皿状のものが多く、直径約15cmの坏状の器もあり、多くは破片の状態出土している。これらの土器は宴席で使われたものと考えられ、一度使ったのみで廃棄されたと考えられている。



廃棄遺構

4 元総社蒼海遺跡群 (元総社町)

榛名山東南麓の相馬が原扇状地端部と前橋台地との移行地にあり、古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡を確認したほか、平安時代の道路状遺構・中世蒼海城の堀跡などを確認した。

● 小金銅仏を発見 (元総社蒼海遺跡群 (145))

台座を含めた高さ 10cm の小金銅仏が出土。右手先と天衣、持物の一部が欠損しているが、ほぼ完形。観音菩薩、あるいは天部の像が。出土した須恵器坏の年代から、小金銅仏は 11 世紀前半頃のものと考えられる。

● 平安時代の工房を発見 (元総社蒼海遺跡群 (75 街区) No.2)

道具や小金銅仏などの鋳型、坩堝、取瓶、銅滓など、鋳造に関する遺物が出土しており、銅製品を作っていた工房と考えられる。鋳型は小金銅仏、三鈷杵、銅印の鋳型が出土。炉は 3 基あり、金床石、鍛造剥片も確認されている。

● 平安時代の道路状遺構を発見 (元総社町蒼海遺跡群 (141))

上幅約 10m、下幅約 5m、深さ約 3m で南北方向に走る。道路面使用の幅は約 3m で、牛池川へ下る。国府の区画溝が 10 世紀頃に埋められ、その後道路として使われた可能性がある。



小金銅仏出土状態



元総社蒼海遺跡群 (145) 遠景 (南東方向から)

5 元総社北小学校遺跡 (総社町総社)

元総社北小学校プール改修建築工事に伴い 208㎡ を調査した。弥生時代から平安時代の竪穴建物跡 22 軒のほか、道路状遺構などを検出した。



遺跡遠景 (北東方向から)

● 弥生時代の竪穴建物跡を発見

21 号竪穴建物跡から弥生土器の壺 (樽式) が出土。弥生時代後期のものと考えられる。

● 古墳時代の竪穴建物跡を発見

9 軒の竪穴建物跡を発見。周辺遺跡の調査結果から、古墳時代のこの地域で集落が作られては途切れ、その後再び作られるということが繰り返されていたことがわかっている。

● 平安時代の竪穴建物跡を発見

12 軒の竪穴建物跡を発見。9 世紀後半から軒数が増加し、この頃にも集落が作られた可能性が高い。

6 上細井中西部遺跡群 (上細井町)

赤城山西南麓に位置し、赤城白川によって形成された白川扇状地の扇端部にある。発見された遺構の中心は 8 世紀から 9 世紀の奈良・平安時代につくられた竪穴建物跡であることが明らかとなった。上細井地区の土地改良事業にともない平成 30 年度から埋蔵文化財の発掘調査を実施している。

● 官衙関連遺物の発見

出土遺物のなかに、文書作成用の文房具 (水差し) である平瓶や、服のベルトの端に付ける青銅製の鉈尾などが出土した。



墨書土器「牛」黒色土器高台碗

●文字資料の発見

牛の文字の墨書土器、「富」と思われる字が刻まれた刻書土器、「大」の字の刻まれた刻書紡錘車などが見ついている。これらの資料から識字層（文字を読み書きできる人々）が存在していたことがうかがえる。

●鍛冶遺構の検出

C工区とD工区から1軒ずつ、鍛冶に関連する建物跡を検出した。被熱した金床石や鉄を精錬する際に出てくる不純物の塊である鉄滓などが見ついている。

7 おざくぼくらかね
荻窪倉兼Ⅲ遺跡（荻窪町）

赤城南麓斜面末端の南北に開析が進んだ丘陵部分にあり、寺沢川の小支谷に東面する標高173mの緩やかな南東斜面上にある。水道施設建設に伴い1,239㎡を調査し、古墳時代後期末から奈良・平安時代の竪穴建物跡26軒、掘立柱建物跡7棟、柵列跡6条などを確認した。



荻窪倉兼Ⅲ遺跡遠景

●大型竪穴建物と掘立柱建物がセットで存在

7世紀末～8世紀前半にかけて大型竪穴建物と掘立柱建物が組み合わされて数回建て替えられた。柵列はこれら建物群の南側境界の可能性がある。8世紀中葉の大型竪穴建物跡からは、墨書に用いる水滴と考えられる須恵器平瓶と、仏像か鏡の一部と考えられる銅製品、および「大（人名か）」の墨書がある土器片3点が出土している。銅製品は仏教への篤い信仰心を、須恵器平瓶は日常的な文字の使用を示しており、一般民衆と異なる階層の人々の存在が想定できる。本遺跡は、郡領氏族など地域の有力者の居宅跡であった可能性が推察される。



須恵器平瓶・銅製品出土状態



円形有段遺構遺物出土状態

8 かみいづみしちなかみね
上泉下中峯遺跡（上泉町）

赤城南麓斜面末端の南北に開析が進んだ丘陵部分にあり、東側の小規模な谷津田と、西側の荻窪川に開析されたやや規模の大きい谷津に挟まれた尾根上東斜面の標高180mに立地する。公園造成に伴い1,084㎡を調査した。古墳時代後期末から奈良・平安時代の竪穴建物跡23軒、掘立柱建物跡10棟、円形有段遺構1基などを確認した。

●円形有段遺構と掘立柱建物跡

調査区北端から直径・深さ約3mの巨大な円形土坑を検出した。底面中央が一段下がる形状から円形有段遺構と呼ばれ、「氷室」の可能性が指摘されている。出土品には、須恵器長頸壺・短頸壺・甕などの貯蔵具とともに、「厨」と墨書された須恵器杯（8世紀中頃）が出土し、厨家の付属施設と想定できる。掘立柱建物跡は10棟確認され、調査区外にも広がる。7世紀後半～末の一群と、8世紀前半代の軸をそろえて並ぶ一群に大別でき、後者は厨家に設置された建物群の可能性はある。



墨書「厨」須恵器杯

厨家は国府や郡衙などの公的機関に置かれた給食施設で、本遺跡には郡衙別院の厨家、あるいは郡衙以外の寺院等に伴う厨家が設置されていた可能性がある。

9 たぐちたきのまえ
田口滝ノ前遺跡 (田口町)

群馬県庁から北へ5.5kmの赤城山斜面と広瀬川低地帯境界の低地帯側に位置し、現状周辺は水田地帯である。道の駅「まえばし赤城」の整備事業に伴い2,164㎡を調査した。調査の結果、6世紀初頭の榛名山ニッ岳噴火を起因とするHr-FA洪水層に覆われた古墳時代の水田と天仁元(1108)年の浅間山噴火を起因とするAs-B軽石層に覆われた平安時代の水田を検出し、古墳時代以降、大規模な水田経営が行われていたことを確認した。



Hr-FA洪水層下水田



As-B軽石下水田

● Hr-FA 洪水層下水田

畦畔が南西から北東、南東から北西を指向する古墳時代中期の「小区画水田」である。南北16条、東西36条の畦畔を検出し、水田面は270面になり遺存状態は非常に良好である。ほぼすべての水田面に水口が確認でき、南西から北東に向けて配水を行っていたと考えられる。大畔に近い北西部の畦畔は、やや湾曲して作られており、地形に沿ったものと考えられる。調査区北と西隅では大畔を検出した。

● As-B 軽石下水田

畦畔が東西・南北を指向する平安時代末期の「条里型水田」である。南北7条、東西7条の畦畔を検出し、水田面は22面になり非常に良好に残っていた。水口も6ヶ所で確認でき、西から東に向かって配水を行っていたと考えられる。また、水田に配水するための溝跡や歩行列と考えられる足跡などを検出した。

群馬県



最近の調査で発掘された
たくさんの遺跡

高崎市

- 1 本郷奥原古墳群
- 2 若田坂上遺跡
- 3 若田金堀塚遺跡
- 4 井出谷頭遺跡
- 5 大八木寺東遺跡
- 6 宿大類塚之越遺跡
- 7 上滝新堀北遺跡
- 8 綿貫遺跡群
- 9 倉賀野中町遺跡
- 10 多比良菴ツ屋遺跡

前橋市

- 1 総社古墳群(総社二子山古墳)
- 2 総社古墳群(愛宕山古墳)
- 3 推定上野国府
- 4 元総社蒼海遺跡群
- 5 元総社北小学校遺跡
- 6 上細井中西部遺跡群
- 7 萩窪倉兼Ⅲ遺跡
- 8 上泉下中峯遺跡
- 9 田口滝ノ前遺跡



令和3年度 前橋・高崎
連携事業文化財展